

情報共有 (2枚 非管理図書)

東京電力株式会社

9/19 13:50 広報班
取扱注意 公開不可

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 9 月 19 日 (月) 11:00~11:15
場所：東京電力本館 3 階大会議室
先方：記者約 20 名 (カメラ 3 台)
当方：原子力設備管理部 [REDACTED]
広報部 [REDACTED]

NISA 班 F-70L7
打点

配布資料

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ

[REDACTED] よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 3号機の炉心の温度について、昨日のパラメータにおいて 100°C を下回っているが、本日 5 時時点ではどうなっているか。

A. 全ての温度計で 100°C を下回っている。

Q. 1号機に続いて炉心温度が 100°C を下回ったことをどう評価しているか。また、3号機の冷温停止についての見解も教えていただきたい。

A. 3号機については、炉心スプレイ系からの注水を開始した事と注水量を増やした効果が出ていると考えている。冷温停止については、100°C を下回ったからと言って、すぐには評価できない。今後、総合的に評価する。

Q. 炉心スプレイ系からの注水と注水量の増加は、どちらの効果が大きいのか。

A. 両方の効果が出ている。3号機もまずまずの勾配で温度が低下しているため、今後は2号機についても炉心スプレイ系による注水量の増加も検討していく。また、原子炉への注水量を増やしているが、タービン建屋の水位も下がり傾向であるため、この状況を維持しながら冷温停止を達成したい。

Q. 2号機について、炉心スプレイ系の注水量を 3m³/h から 4m³/h に増加する理由を教えてください。

A. 2号機は3号機に比べて、炉心温度の低下が鈍い。炉心スプレイ系と給水系のどちらの効果が大きいかわからないが、まずは炉心スプレイ系を増やし、経過を観察する。

Q. 3号機の注水量はどのように絞るのか。

A. 3号機の炉心温度はかなり下がっており、2号機の注水量を増やすことから、バランスを考えて3号機の注水量を絞る計画を立てている。時期については未定。

Q. ホームページを見ると、3号機のプラントデータでは温度計の設置箇所は、S/C温度以外で11箇所あるとのことだが、その理解でよいか。

A. その通り。

Q. 2, 3号機原子炉への注水量を増やした後の圧力容器の温度の下がり方から、圧力容器内の燃料の状況についてはどの程度までわかるのか。

A. まだ具体的に言及できる段階ではない。2号機と3号機では温度の下がり方が異なっており、また2号機についてはCS系からの注水量を増やすことを計画しているので、注水量を増やした後の圧力容器の温度挙動も含めて評価していきたい。

Q. 給水系からの注水の効果があるということは圧力容器の底部に損傷した燃料がたまっているということで、CS系からの注水の効果があるということは圧力容器の上部に燃料が残っている、という推定を実際の温度低下の挙動を見ながら評価することになるのか。

A. そのような評価を行う予定。

以上

情報共有

(5枚 非管理文書)

東京電力株式会社

プラント状況 (本店レク)、議事メモ

取次
棚田

1/20 9:55 右様

日時：平成 23 年 9 月 19 日 (月) 18:00~18:45
場所：東京電力本館 3 階大会議室
先方：記者約 20 名 (カメラ 3 台)
当方：原子力・立地本部 [REDACTED]
原子力設備管理部 [REDACTED]
広報部 [REDACTED]

NISA 向け 7% ス
抜付

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について (第百七十八報)
- ・ 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について (9 月 18 日採取分)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (9 月 19 日)
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (9 月 19 日 12:00 現在)

[REDACTED] よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

- Q. 3号機圧力容器の温度が約 90℃まで下がっているが、どのように評価しているのか。また今後注水量を絞ることについての課題は何か。
- A. 現在 3号機は給水系統と炉心スプレイ系とで約 12 m³/h 注水しているが、温度のパラメータを見ると、6 時間毎に最低でも約 0.5℃低下している。圧力容器下部や給水ノズルの温度は、約 90℃まで下がっており、その他の箇所についても 100℃を下回っていることから、十分に冷却の効果ができていると判断している。圧力容器の温度が低下している主な原因は、注水量が多いためと判断しているが、引き続き炉心スプレイ系からの注水効果も評価してまいりたい。なお今後注水量をどのように変化させるかは、現在検討中である。
- Q. 3号機の注水量を減らした後も圧力容器の温度が 100℃を下回ることが重要との認識でよいか。
- A. 現在の注水量を変化させた際に、圧力容器の温度がどの程度変化するかが重要だと考えている。なお注水量をいつ減少させるかは、現時点で未定である。
- Q. 2号機において炉心スプレイ系からの注水量を 3 m³/h から 4 m³/h に増やしているにもかかわらず、3号機と比較すると圧力容器の温度の下がり方が鈍いが、どのように評価しているか。
- A. 3号機に比べ 2号機の温度の下がり方は、それほど低下率が大きくないことから、

更に流量を増やし、様子を見たいと考えている。更に注水量をどの程度増やすかは、注水量と温度の変化の具合を見ながら判断したい。

Q. 2号機の注水量を更に増やすこともあり得るのか。

A. 注水量については、注水量を変化させた後、圧力容器の温度を観察する必要があるため、最低でも1日程度様子を見ながらどこまで注水量を増やすかを判断していく。

Q. 3号機と比較し、2号機圧力容器の温度が下がらない理由として、注水量以外に考えられる要因はあるのか。

A. はっきりした理由は分からないが、炉心にある損傷燃料の形状が違うのではないかと考えている。3号機は、1, 2号機に比べ注水量が多かったにもかかわらず、圧力容器の温度が下がりづらい状態であったが、炉心スプレイ系からの注水を開始したところ炉内の温度が下がり始めた。一方、2号機圧力容器の温度は比較的安定した状態にあり、約3.8 m³/hで注水を行ってきたが、今後は炉心スプレイ系からの注水量を増やししながら、圧力容器の温度変化を見ていきたいと考えている。

Q. 3号機は比較的燃料が炉心に残っているため、圧力容器の温度の下がり方が早いのか。

A. マープの解析での炉内の状況は、2号機と3号機でそれほど大きな差がない状態であった。燃料損傷の程度としては、2号機より3号機の方が形状を維持している可能性が若干高いとの結果が出ているが、あくまで解析上での結果であり、実際の燃料の損傷の具合は分かっていない。

Q. 1～3号機の原子炉建屋上部でのダストサンプリングは、今後も月1回続けていくのか。

A. 今後も月1回程度測定したいと考えている。10月以降、1号機原子炉建屋にカバーが設置されるため、建屋内のダクトから排気ガスをサンプリングすることになる。2号機は今まで通りブローアウトパネル開放部から、3号機は原子炉建屋上部の開放部でサンプリングを実施していく。

Q. 以前福島第一原子力発電所の作業員に支給していた弁当は東電が支給していたのか。

A. 当社が提供していたのか、当社の委託先が提供していたのかは確認する。

Q. 弁当の支給廃止後、Jヴィレッジで販売している弁当の価格はいくらか。

A. 売店運営については、当社が回答する立場にない。

Q. Jヴィレッジの売店を運営しているのは誰か。

A. 以前から売店を運営していた方。

Q. 弁当の価格設定は売店で行うのか。

A. その通り。

Q. 作業員の福利厚生観点から弁当の価格を教えてください。

A. 売店運営については、当社が回答する立場にない。

Q. 作業員が食事をする場合、Jヴィレッジまで移動する必要があるのか。

A. Jヴィレッジが免震重要棟で食事をする事ができる。

Q. 今後東電として弁当の支給は考えていないのか。

A. 現時点で弁当を支給することは考えていない。

Q. 淡水化装置RO- (3) が水漏れで停止したとのことだが、具体的にどの部分から漏えいしているのか。

A. 装置内のフィルターの水圧を測定する圧力計の繋ぎ目部分から漏れている。原因については現在調査中である。

Q. 漏れた水の放射線濃度はどの程度なのか。

A. RO装置への濃縮塩水であり、10の2乗 Bq/cm³ である。

Q. 作業員の目視確認により水漏れを発見したのか。

A. 本日午前5時47分に淡水化装置RO- (2)、(3) についてはタンク水位レベルが下がったことにより停止していたが、タンクの水源確保により12時05分に再起動している。その後、作業員がパトロールした際に水漏れを確認し15時16分に両方の装置を停止した。点検の結果、RO- (3) から漏えいであることを確認できたので、14時50分RO- (2) のみを起動した。なお、漏えい量は約18Lで、下部にある堰に留まっている状況である。

Q. 冷温停止達成の時期を年内に前倒しするとの報道があるが、その点に関する見解は。

A. そのような報道があることは承知しているが、現在最終的な取り纏め中であり、明日の会見の中で報告させていただく。

Q. 淡水化装置RO- (3) で漏れた水については分析を行う予定なのか。

A. 現在、漏えいした水は堰の中に溜まっているが、深さが3mm程度であり、サンプリングできるかどうかを確認中である。

Q. 処理水の主要3核種以外の分析はいつ実施するのか。

A. 9月中に実施したいと考えている。

Q. 事故時における地元自治体との避難連絡の方法は。

A. 安全協定における避難についての記載は確認する。

Q. 一部報道では、発電所から避難に関する連絡が来なかったとのことだが、当時の連絡方法はどうなっていたのか。

A. 当時は原災法の第10条、15条の対応であり、通報連絡にて国および地元自治体に報告している。詳細な連絡方法については確認させていただくが、役場には当社の社員が駐在しており窓口業務対応を実施していた。

Q. 役場には事故発生直後に東電の社員が駐在していたのか。また何人駐在していたのか。

A. 確認する。

Q. 地盤沈下量をGPSによる測量にて確認していると思うが、最新の状況は。

A. GPSでの測量は終了しているが、国土地理院から水準点の校正についての報告がきていないので、その値を待っている状況。

Q. 当初の推測では、50cm～1m程度沈下しているとの見解であったと思うが、最新の見解は。

A. 山側から海側にかけて約50～60cm程度沈降している状況。

Q. 7月上旬にサブドレンの水位を発表していたが、最新の値を公表して欲しい。

A. 9月16日のグラウンドレベルからの水位は、1号機 O.P.-5,930mm、2号機 O.P.-5,520mm、3号機 O.P.-6,260mm、4号機 O.P.-5,120mm、5号機 O.P.-7,520mm、6号機 O.P.-7,350mm である。なお、1～4号機でのグラウンドレベルは O.P.10,200mm である。7月以降の値については続けて公表できるよう準備したい。

Q. 9月16日のサブドレンの水位が O.P.3,000mm より高い状況であるが、これは地下水から原子炉建屋へ水が流れ込んでいるということなのか。

A. サブドレン水の水位を高い状態を維持することで建屋から地下水へ流れ込みがないようにしている。なお、サブドレンのポンプは復旧していないため汲み上げを実施していない状況であるため、サブドレンの水位は雨が降ると上昇し、晴天が続くと下がることになる。

Q. タービン建屋水位を O.P.3,000mm を目標に下げきて、現在水位を維持している状況であるが、溜まり水の水位が低下すると地下水がタービン建屋に流れ込んでくるのか。

A. 水頭圧差により地下水が流れ込んできている可能性はある。その場合は地下水含めた溜まり水进行处理することになる。

Q. 地下水については、若干ではあるが放射性物質を含んでおり外部に漏えいさせてはいけない状況なのか。

A. 雨が降って地面にとけ込み、最終的にサブドレンに集まってくるが、淡水に比べると放射線濃度が高い状況である。日々公表している集中廃棄物処理施設周辺のサブドレン水の濃度は ND であることが多いが、値としては水中の濃度限度よりも高い状況である。

Q. 地下水へ流出させないためにタービン建屋水位を O.P.3,000mm に維持している、という説明をこれまで実施しなかった理由は。

A. 定量的な確認ができていないので説明を実施しなかったもの。O.P.3,000mm を維持する理由の1つとして、水頭圧による地下水流入の可能性も考慮している。

Q. サブドレンの水位に併せて集中廃棄物減容処理建屋の水位も公表頂きたい。
A. 確認する。

Q. 2号機圧力容器の温度の下がり具合が注水量を倍にしても低下傾向が緩やかであるが、現在単位時間あたりの温度低下はどの程度なのか。

A. 温度低下については、はっきりとした傾向はない。圧力容器下部の温度については9月18日から19日にかけての0.5℃程度下がっているが、18日については113℃のまま温度変化がなかった。もう少し注水量を増加させて温度低下の傾向を確認したい。

Q. 注水量を増やす場合、CS系からの注水量を増やすのか。

A. CS系からの注水の方が効率よく冷却できると考えている。

<淡水化装置RO- (3) 水漏れ事象に関する補足説明>

漏えい箇所は、ブースタポンプへの配管、圧力計取り出し用テフロンチューブのピンホールより漏えいした。供給水側の水であるため、処理水と濃縮塩水に分かれる前の水が漏れたことになる。放射性物質濃度としては、9月17日に公表したものでは、セシウム134は 1.2×10^2 、セシウム137は $1.4 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$ 。漏れた水の表面線量はβ線2.5mSv/h、γ線の空間線量は0.04mSv/hである。

以上